会　議　録

１　会議名

令和４年度第１１回牧区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

〇報告事項（公開）

⑴ 地域独自の予算の事業一覧について

⑵ 委員からの提案に対する回答について

〇自主的審議事項（公開）

⑴あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

３　開催日時

令和５年２月２１日（火）午後６時００分から午後７時５０分まで

４　開催場所

牧区総合事務所３階　３０１会議室

５　傍聴人の数

０人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委　員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、髙澤富士雄

・事務局：牧区総合事務所　山岸所長、小林次長、佐々木グループ長、藤井班長、田中主事（以下、グループ長はG長と表記）

８　発言の内容（要旨）

【小林次長】

・会議の開会を宣言。

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

・挨拶。

・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

・挨拶。(「令和５年度当初予算案の概要」説明を含む)

【西山会長】

・会議録の確認：井上委員に依頼。

・本日の報告事項である、⑴地域独自の予算の事業一覧について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

―資料Ｎｏ．１に基づき説明―

【西山会長】

・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【清水委員】

・冒頭で山岸所長から説明いただいた令和５年度当初予算の概要について、他の市町村同様、国の予算が増えているのに地方の予算が減っている。当初予算が減額になった主な要因は何か。また、地域独自の予算について、三和区における予算額が多いと感じた。谷内池の事業に大幅な予算を投入し、市が実施主体となって取り組むとのことだが、そのような予算の組み方は可能なのか。可能であれば、牧区でも出すべき要望が多大にある。

【山岸所長】

・まず、当初予算が減額となった要因についてである。普通建設事業費において新上越斎場やキューピットバレイスキー場の関係で１５億３千万円余り増加する。一方で、令和４年度において、第三セクター等行革推進債の借換えを行うため、市債と公債費にそれぞれ約４６億円を措置していたものが減となったことによる。なお、国の補正予算を活用した、いわゆる１５か月予算は、前年度に比べ増えている。

【藤井班長】

・「谷内池の環境保全のオニバスの再生プロジェクト事業」は、予算額が３４１万４千円、事業概要としてはオニバスの生育活動と環境整備に尽力し、郊外の方からも谷内池の魅力を知ってもらうためにネット柵、遊歩道の草刈りや伐採、谷内池の調査などが盛

り込まれている。

【清水委員】

・牧区の場合、ふるさと村や宮口古墳の遊歩道が挙げられる。それらを予算として組むことはできるのか。ふるさと村や宮口古墳の遊歩道の整備などは実際に令和５年度の地域独自の予算として提案されているが、仲間内で取り組むような規模ではなく、さらに大がかりに予算を組むことはできるのか。

【山岸所長】

・その点においては、実際に取り組む人がいなければ成り立たない。

【清水委員】

・谷内池の事業は地元の人が懸命に汗水流して行うものではなく、外部への委託事業だと思われる。

【山岸所長】

・市が実施主体となる「谷内池周辺の遊歩道整備事業」は、三和の自然と地域を育む会の「谷内池の環境保全とオニバス再生プロジェクト事業」とともに取り組むものだと思われる。

【清水委員】

・そのような予算の組み方であれば、いくらでも事業が増えると思われる。

【山岸所長】

・他区の事業をご覧いただき、牧区の令和６年度における予算要求の参考としていただきたい。

【西山会長】

・他に質問、意見等がないため、一つ目の報告事項を終了する。続いて、報告事項⑵委員からの提案に対する回答について、事務局より説明を求める。

【佐々木グループ長】

―資料Ｎｏ．２に基づき説明―

【小林次長】

・続いて、事務局から提案をさせていただく。前回地域協議会において、井上委員や他の委員より、教育委員会との意見交換をとおして保護者がどのように感じているのかを聞きたいとの意見があった。そこで、直近ではあるが３月７日の火曜日、牧小学校

で開催されるＰＴＡ総会の場を借りて保護者との意見交換会を提案させていただきたい。すでに学校側にも承諾を得ており、総会終了後の午後４時１５分から３０分程度、意見交換を行う形となる。限られた時間の中ではあるが、保護者の意見を直接確認することができる。なお、今回の意見交換会は地域協議会委員が主体となって開催することをお願いしたい。

【西山会長】

・今程事務局から説明のあった提案について、質問や意見等はないか。

【井上委員】

・保護者との意見交換はとても良いことだと思う。保護者が抱える不安や今後の希望など、私自身話を聞いてみたい。当日は地域協議会委員全員で参加するのが最も良い形だが、何人かで出向くことができれば良い。

【西山会長】

・開催日が平日となり、お勤めの方や都合の悪い方もいらっしゃると思うが、保護者との意見交換会は実施することでよろしいか。

（一同、異論なし）

【山岸所長】

・保護者については、ＰＴＡ総会や学級懇談を経て参加いただく形となるため、中には帰られる方もいらっしゃると思われる。加えて、時間も３０分と限られている旨をご承知おきいただきたい。小林次長から説明があったとおり、前回地域協議会において保護者の意見を聞きたいとの意見をいただいた。さすがに地域協議会で意見を聞くためだけに保護者を集めることは厳しいと思われることから、ＰＴＡ総会の日程を踏まえて急遽牧小学校保護者との意見交換会を設定させていただいたところである。

【小林次長】

・それでは、意見交換会は実施する方向で進めさせていただく。平日のため、なかなか参加できない方もいらっしゃると思うが、少なくとも３名程参加いただきたい。意見交換会に参加できる方は挙手をお願いする。

（西山会長、飯田副会長、井上委員、佐藤委員　４名が挙手）

【小林次長】

・当日参加される４名については、後日打ち合わせを行うのでご承知おきいただきたい。

本日以降参加を希望される方がいれば、事務局までご連絡いただければと思う。

【井上委員】

・丁寧な回答をいただき、感謝申し上げる。今回のようにここにいる人たちと話し合いができること、自分の思ったことを伝えられること、それに対して考えを聞けることはとても良いことだと思う。子どもたちの今後を考え、統合をより前向きに考えていく必要がある。一方、資料には参考として機械的に計測した距離が記載されているが、実際に市が動いていった時に機械的に計測した数値だけでは解決しない問題もある。地域の意見を反映させながら学校の今後を考えることができれば良い。

【西山会長】

・他に質問、意見等がないため、報告事項を終了する。続いて、自主的審議事項⑴あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

―資料Ｎｏ．３に基づき説明―

【西山会長】

・前回の地域協議会や清水委員から出された意見を踏まえ、具体的な取組内容が示された。内容について追加意見などがあれば発言を求める。

【飯田副会長】

・近年、牧高齢者等福祉センターの利用が増加している観点から、高齢者が冬期間住める施設が大事になってくると思われる。施設を利用することで冬期間における雪の心配はなく、春になれば地元へ戻って山を散策したりすることで高齢者の生きがいにもつながる。また、農業・林業について、メープルシロップや根曲がり杉の活用などの新しい産業ができることによって雇用が生まれる。一方、国や県、市から補助がなければ、組織を拡大して中山間地域で農業に取り組むことは難しいと考える。

【山岸所長】

・実現可能か否かは別として、現在の牧高齢者等福祉センターの部屋数を増やしたり、同様の建物を別に建てるなど、具体的なイメージはあるのか。

【飯田副会長】

・形としては牧高齢者等福祉センターが最も良い。アパートのような形だと家賃などのお金の問題も出てくる。今後、仮に小中学校が統合することがあれば校舎を利活用す

ることも考えられる。

【佐藤委員】

・以前担当していたため、補足説明をさせていただく。牧区では冬期間のみ高齢者生活支援ハウスとして利用しているが、清里区や板倉区は通年である。牧区より規模は小さいものの、板倉区では社会福祉協議会が、清里区では老人ホームが管理しており、近年では牧区のグレードが最も高い。部屋は広く、温かく、収納する場所や冷蔵庫などがある。仮に、小中学校が統合した場合は冬期間のみの利用はもちろん、通年型の生活支援ハウスとして利用することなどが考えられる。一人暮らしだと心細い面もあるが、誰かの目があることは安心である。

【西山会長】

・清里区と板倉区の施設はどのような施設なのか。

【佐藤委員】

・清里区はみねの園に併設されており、板倉区はみやじまの里に併設されている。

【西山会長】

・牧高齢者等福祉センターの利用は区内の住民のみか。あるいは区外からも利用があるのか。

【山岸所長】

・過去には区外からの利用もあったが、今年は該当がない。

【西山会長】

・予約型コミュニティバスの現在の利用はどのような状況か。

【山岸所長】

・利用は少なからず増えている。先日アンケートを実施し、時刻表がなくなったことで非常に利用しやすいなどの意見があった。予約方法も徐々に浸透してきており、今後は早い時間帯や遅い時間帯の利用が増えれば良いと考える。

【西山会長】

・牧振興会が取り組んでいる買い物ツアーの利用はどのような状況か。

【山岸所長】

・買い物ツアーの回数を増やしている面から需要があると思われる。その点に関しては３月に行われる牧振興会との意見交換会で質問いただきたい。

【飯田副会長】

・「子育て移住」について、以前行われていた「えちご田舎体験ツアー」のような事業に総合事務所が協力し、人と人との交流の場を図ることが必要である。他の市町村同様、様々な受け入れを知ることで交流が図られ、牧区の良い点や悪い点を知ることができる。近年は新型コロナウイルスの影響で学校側も消極的であったり、受け入れる側の高齢化といった問題もある。そのため、個人ではなく地域で受け入れるようにすれば人と人との交流ができるのではないか。

【井上委員】

・空き家と移住をメインにするのは唐突な気がする。現在牧区にいる人たちに重点をおいた方が良い。知り合いに市街地で生活をしていて、牧区に来て元の自分の家の周りでキャンプをしたり、田を買って取り組んでいる人がいる。そのような人の方が生きている、力強いものを感じる。「子育て移住」は区外から来る人のみに目を向けているわけではないと思うが、どちらかと言うと半農半Ｘを大きく扱っても良いと考える。

【山岸所長】

・どのような仕掛けをしたら良いかなど、具体的なイメージはあるか。

【井上委員】

・ホームページを活用して、一緒に農業に取り組む人を募集することなどが挙げられる。

【清水委員】

・区外に転出した方で元に住んでいた町内の町内会長になる人など、実際に半農半Ｘに取り組んでいる人もいる。一方で、畑をやりたい人がいた際、耕耘作業を手伝うなどして地域で支えていかないと輪は広がらない。そのような形を目指すべきだと考える。

【飯田副会長】

・清水委員が言われたとおり、困っていればトラクターで耕耘作業を手伝うなど、自助公助の気持ちが重要だと考える。また、井上委員が言われたとおり情報発信をすればとにかく見る時代である。移住につながらないとしても、情報発信をすることで交流が生まれ、牧区に人が来るといった良い循環につながると考える。

【坂井委員】

・「子育て移住」において、主な実施主体として総合事務所や牧振興会が挙げられているが、総合事務所の職員が少ない中で新しい事業に取り組むことは大変だと思われる。

そのため、地域おこし協力隊や集落づくり推進員のような新しい人員を配置し、窓口をつくる形はどうか。総合事務所と言っても担当は地域振興班になると思うが、それだけでは業務を賄えない。例えば、空き家の情報を収集しても家の状態などを細かく見ていかないと利用できるか否かは把握が難しい。さらに、窓口があれば地域の人々も情報を持ち寄りやすくなるのではないか。また、冒頭で山岸所長から説明いただいた「令和５年度の当初予算の概要」において、「『将来ビジョン』の実現に向けた取組支援」としてかなりの予算を組んでおり、中山間地域元気な農業づくり推進員を２名増員するとある。こちらは市で増員するのか。あるいは中山間地域で手を挙げれば推進員を増員してくれるのか。牧農林業振興公社やＪＡだけでは担当者を設けないと事業を進めるのが大変だと思われるので、可能であれば牧区にもぜひ来ていただきたい。

【山岸所長】

・地域に入って手助けを行うため、現在木田庁舎にいる２名を４名に増やすものである。そのため、出向く機会は今より増えると思うが、牧区に増員するのではない。一方、提案について助言をいただいたり、こちらから呼び込むことは良いと考える。

【坂井委員】

・多くの提案が出ていても、どのように肉付けしていくかが難しい。まず人がいない。

【山岸所長】

・先程の清水委員の貸し畑について、宮口で畑を貸し出せる情報を牧振興会のホームページに掲載することは交渉次第で可能だと思われる。

【清水委員】

・畑が隣接しているため、周囲の理解が必要となる。そして、牧区全体で畑を活用していかなければ耕作放棄地がどんどん増えてしまうため、全体で取り組む雰囲気づくりが必要である。また、これから中山間地域等直接支払は年度更新によって減少し、耕作放棄地が増加することを地元の人が悪いといった言い方をするのは憤慨である。

【小黒委員】

・先祖代々から引き継いできた土地も、採算が取れないからやめざるを得ない。

【佐々木グループ長】

・牧区は６０代、７０代の方が第一線で頑張っている。６０歳以下で農業に取り組んでいる若い方をピックアップして今後の動向といった本気の気持ちを聞いてみたい。資

料にも「担い手（個人経営農家）による検討会の開催」を記載させていただいた。最終的に牧区の中でどの程度田が残るかは分からないが、現在懸命に取り組まれている方の気持ちを聞いてつながりを持たなければ限界がせまっている。そろそろ６０歳以下の方を中心に進めていかなければならない。区内にも現在活躍されている若い方がかなりいらっしゃる。私自身、微力ながら頑張りたいという気持ちがある。同世代に声がけを行えばできることだと思うので、ぜひ取り組みとして行いたい。

【小黒委員】

・良いと思う。現在の牧区の農業はそれらにすがるしかない。７０歳、８０歳の方が取り組んでいる一方、限界がある。

【佐々木グループ長】

・参考までに、牧区と同規模である大島区の将来推計人口を見ると、何も取り組まなければ３０年後には３００人を下回る。一方で、若者世代の転入者が１０人いれば人口の減少が緩和するとのことである。また、井上委員が言われたとおり、牧区にいる人たちの豊かさや生きやすさを追及していかなければ人口は減少してしまう。生きがいを発信することによって外から人を取り込むアプローチも必要となる。それらを整理することで今後の方向性が見えてくるのではないか。

【折笠委員】

・メープルシロップについて、私自身興味本位で採取している。昨日の時点で２Ｌのペットボトル１３本、３週間後にはペットボトル３０本程度採取できると思われる。牧区全体に声をかければかなりの量が採取できることから、メープルシロップを加工する組織や施設などの仕組みを整えることで、産業としてかなり成り立つと思われる。採取にあたって特別な技術や体力もいらず、収入につながる。

【藤井班長】

・イタヤの梨本さんから一度話を聞くのも良いと考える。

【小黒委員】

・情報発信を行うことで、他にも採取できる人がいるかもしれない。

【清水委員】

・先日イタヤの梨本さんと話をした際、まず勉強をした後、増やすために苗を植え、体験活動に取り組み、将来的には仲間を増やしていくとのことである。それに地域協議

会がどれだけ支援できるのかが重要になる。

【小黒委員】

・山にどれだけイタヤカエデがあるのか分からない。

【折笠委員】

・イタヤカエデは群生しており、探せばかなりの本数があると思われる。

【髙澤委員】

・土地の地権者の問題もある。無断でやることは良くない。

【山岸所長】

・探す土地を見極める必要がある。

【西山会長】

・「子育て移住」、「農業・林業」、「外出支援」のうち、どの項目から協議を進めるか意見をいただきたい。最も話が盛り上がった「農業・林業」から進めるのはどうか。

【藤井班長】

・同時に進めていくことも可能だと思われるので、できるものから順次進めていきたいと考える。今回出た意見をもとに意見交換会において地域協議会の提案を提示させていただきたい。

【小林次長】

・牧振興会との意見交換会においては、現在地域協議会が協議している内容の中で特に伝えていきたいものを出せたら良いと考えている。本日の様子を見るとメープルシロップの内容がとても盛り上がった。お互いの気持ちが合致すれば協議も活発になると思われるので、それらを踏まえて意見交換に持っていきたいと考えている。事務局としても買い物支援は回数を増やすのか否かなど、牧振興会がどのような考えを持っているのか聞き、充実した意見交換を行いたい。本日出た意見を整理し、当日は委員の皆さんからも意見を聞くような形になるので、あらかじめお考えをまとめたうえで参加いただきたい。

【西山会長】

・他に質問、意見等がないため、自主的審議事項を終了する。続いて、その他連絡事項について、事務局より説明を求める。

【田中主事】

・浦川原区地域協議会からの意見書提出について

・「地域独自の予算」事業説明会等の開催について

・「牧区地域協議会だより（第５７号)」３月２５日号発行について

・次回地域協議会の開催は３月２０日の月曜日、午後６時からとする。後日、案内文を送付するため、出欠についてご報告いただきたい。

【西山会長】

・他に意見を求めるが発言がないため、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

・会議の閉会を宣言。

９　問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ　TEL：025-533-5141（内線 147）

E-mail：maki-ku@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。